

キラリ! 輝く人たち

7月22日～29日、大阪府堺市で開催された第22回全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会で第3位に輝いた栃木サッカークラブレディース。不動のレギュラーとしてゴールを守り、大きな声でチームを鼓舞する守護神として活躍する野村美緒さんに話を伺いました。

友達に誘われて始めたサッカー

3歳の頃からずっと水泳に打ち込んでいた野村さんに転機が訪れたのは小学4年生のとき。友達の三浦晴香さん(現：浦和レッズレディースユース)から「一緒にサッカーをやるよ」と誘われ、入部したのが古河なでしこFCでした。

「年代別の日本代表で活躍していて尊敬する三浦さんと一緒に練習が出来たのがすごくいい経験になりました」と笑顔で話します。

意外なことに「キャッチが上手だからゴールキーパーをやってみなよ」と何気なく監督に勧められたことがきっかけでゴールキーパーを始めました。

クラブチームからのスカウト

小学6年生の時に初めて出場した関東大会で声をかけていただき、栃木サッカークラブレディースの練習に参加することになりました。

最初は、選手のプレーの速さやボールさばきの上手さに圧倒され、レベルの高いクラブチームで自分の実力が通用するか不安もたくさんあったそうです。

持ち前の前向きな性格を武器に必死に練習を重ね、中学3年生の時にようやくつかんだ正ゴールキーパーの座。その後、出場した全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会でも大躍進を遂げ、たどり着いた3位決定戦。

野村さんは体調不良で出場できませんでし

「感謝の気持ちを力に」

野村美緒さん(15歳・総和南中学校)



たが、関東大会で敗れたノジマステラ神奈川相模原が対戦相手ということもあり、チーム一丸となり勝負に挑み、勝利を収めました。

支えてくれるすべての人に感謝

遠く離れたクラブチームで頑張る野村さんを支えるのはお母さん。ほぼ毎日、練習のために栃木県宇都宮市まで送迎し、試合があれば応援に駆け付け、野村さんが万全の状態です。サッカーができるようにサポートしてくれています。「恥ずかしいので普段はあまり口にしません、お母さんには一番感謝しています」と照れながら話してくれました。

野村さんの今一番の悩みは高校進学。女子サッカー部がある高校に進学するかどうか迷っているそうです。中学3年生らしい悩みを抱えた野村さんは、ゴールを守るたくましい守護神ではなく、はにかんだ笑顔がかわいらしい女子中学生でした。



▲正確なパントキックを蹴る野村さん